

【布佐中学校区の在り方検討委員会 資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて

<児童生徒>

視点	項目	① 3校とも施設規模を適正化し現在地で建て替え	② 隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし、布佐南小は施設規模を適正化し現在地で建て替え	③ 3校を一体型小中一貫校へ
児童生徒	1 学習環境	○小学校においては少人数でのゆとりある環境で学ぶことができる。 ○個別最適な学びに向けた、きめ細かな指導がしやすい。 ▲小学校においては少人数のため、学習内容によっては十分な学習活動が行えない場合がある。 ▲各学校において、教員の少なさから、学習活動が制限される場合がある。 ▲学級間の相互啓発や切磋琢磨がしにくい。	○小学校においては少人数でのゆとりある環境で学ぶことができる。 ○9年間の見通しをもった学習がしやすくなる。 ○小学校段階から教科担任制による専門性の高い学習をすることができる。 ▲小学校においては少人数のため、学習の内容によっては十分な学習活動が行えない場合がある。 ▲布佐南小学校においては、教員の少なさから、学習活動が制限される場合がある。	○9年間の見通しをもった学習しやすくなる。 ○小学校段階から教科担任制による専門性の高い学習をすることができる。 ○小学校段階の児童数が増え、学び合ったり競い合ったりする環境になり、学力の向上につながる。 ○4-3-2制などの特色ある教育課程を組めるようになる。 ▲校庭や体育館、特別教室の共用に調整が必要になる。 一我孫子市での小中一貫教育は布佐地区が先駆けとなっている。そのような小中一貫教育という観点から見たときに、一体型の校舎というのは理想的だと思う。
児童生徒	2 学習内容	○布佐地区の中でもより住環境に最適な地域学習ができる。 ○小学校区・中学校区の範囲が変わらず、従来の環境の中で地域学習ができる。 ▲人数の関係から、学習内容が限定されてしまう場合がある。 ▲中学校段階で、「地域」理解に差があるため、共通の土台をもって学習することが難しい。	○9年間をとおした異学年交流・合同学習が行いやすくなる。 ○小学校区・中学校区の範囲が変わらず、従来の環境の中で地域学習ができる。 ▲中学校段階で、「地域」理解に差があるため、共通の土台をもって学習することが難しい。	○9年間をとおした異学年交流・合同学習が行いやすくなる。 ○小学校段階において多様な児童の考えの交流から学びが深まり、学習内容が充実する。 ○地域について学習するときに、多様な環境の内容を持ち寄って比較検討することができる。 ○中学校段階で、「地域」理解に差がなく、共通の土台をもって学習することができる。
児童生徒	3 生活環境	○少人数のためゆとりある学校生活を送ることができる。 ○異学年交流がしやすい。 ▲清掃分担や、委員会活動など、余裕のない人数の中で実施しなければならない。 ▲部活動数が少ない。	○清掃分担や委員会活動など、9年間をとおした分担や縦割り活動ができる。 ○9年間をとおした生活ルールの中で生活を送ることができ、中学校進学段階でのギャップが少ない。 ○▲布佐南小学校にとっては、新鮮な生活環境で中学校生活をスタートできるが、中学校進学時に生活のルールなどへの適応に課題が出る場合がある。	○小学校段階においては、より多様な仲間と生活を送ることにより、一層の生活の充実を図ることができる。 ○清掃分担や委員会活動など、9年間をとおした分担や縦割り活動ができる。 ○9年間をとおした生活ルールの中で生活を送ることができ、中学校進学段階でのギャップが少ない。 ○部活動数を増やせる。 → 中学校段階の人数が変わらないため部活数は増えないのでは。 → 一体化により、中学生と同じ部活に小学校高学年からの参加でき、活動が活発になる。 ▲中学校進学時の環境変化による、気持ちの切り替えや新生活への期待感が薄れる可能性がある。 ▲9年間同一施設での生活から、高校進学にあたっての新生活への適応に課題が出る場合がある。
児童生徒	4 人間関係	○小学校においては、登下校のグルーピングや放課後に過ごす友達を作りやすい。 ○中学校進学時に新しい友達との出会いがあり、新しい人間関係を築くことができる。 ▲小学校においては単学級であるため、クラス替えができず、人間関係でつまづいたときの逃げ場がない。	○小学校と中学校の縦の関わりが持てる。 ○中学校進学時に新しい友達との出会いがあり、新しい人間関係を築くことができる。 → 過去にも布中進学時に両校の出身者同士であまり打ち解けない事例があった。南小から見ると途中からの合流はメリットとならない場合もある。 ▲布佐南小学校から布佐中学校へ進学した場合、布佐小学校布佐中学校の縦の関係できあがった中に入ることになる。	○小学校段階においては、人数が増えるので、たくさんの友達ができる。 ○クラス替えにより人間関係を更新できる。 ○小学校と中学校の縦の関わりが持てる。 ○9年間の関わりの中で、安心できる関係を築くことができる。 ▲人間関係の固定化が長く続くことによる弊害が生じる可能性がある。 → 小学校段階から2クラスになり、9年間の人間関係の固定化は改善される。
児童生徒	5 学校行事	○各学校の実態に応じて、柔軟に設定することができる。 ○緊急時に混雑しにくい。 ▲小学校においては、少人数での実施となり、行事によっては、充実に乏しくなる場合もある。 ▲中学校区合同で行事を行う場合は、日程調整や教育課程の編成上、多くを行うことは難しい。	○小中学校合同で行事を開催することが容易になる。 ○9年間のうち、実施学年の区切りを工夫した行事を行うことも実現しやすくなる。 ▲小学校段階においては、少人数での実施となり、行事によっては、充実に乏しくなる場合もある。 ▲中学校区合同で行事を行う場合は、日程調整や教育課程の編成上、多くを行うことは難しい。	○在籍児童数が多くなることにより、小学校段階においても、小中学校合同で実施する場合にも、これまでより大きな規模で行事を行いやすくなる。 ○小中学校合同で行事を開催することが容易になる。 ○9年間のうち、実施学年の区切りを工夫した行事を行うことも実現しやすくなる。 →行事の際に保護者駐車場等の確保はどうなるのか。 →運動会で家族毎のスペースはとれるのだろうか。

【布佐中学校区の在り方検討委員会 資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて

〈児童生徒〉

視点	項目	① 3校とも施設規模を適正化し現在地で建て替え	② 隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし、布佐南小は施設規模を適正化し現在地で建て替え	③ 3校を一体型小中一貫校へ
児童生徒	6 通学距離	○小学校段階においては、通学距離が均等化されている。	○小学校段階においては、通学距離が均等化されている。	▲小学校段階においては、通学距離が長くなり登下校に負担がかかる場合がある。 (例：南小学区では南新木2丁目端から、南小まで1.8km→布佐小まで2.9kmになる) → スクールバスの運行も考えられるので、デメリットにはならないのではないか。 ▲小学校段階においては、放課後の交友関係が居住地区の友人に限られてしまう。 → 居住地区だけでなく、布佐全域で交流が深まるのではないか。 → 南新木地区は新木小も近いので「布小の位置に通うなら新木小へ通う」という意見が出る可能性を懸念している。 → 南小から布小へ通うとしても徒歩圏内であり、バスは不要ではないか。 → 低学年の通学距離や朝夕の部活動時の運行など検討すべき。
児童生徒	7 通学手段	○小学校は従来通りの徒歩での通学が主となる。	○従来通りの徒歩での通学が主となる。	▲小学校段階の布佐南小学区在住児童については、検討が必要。 ・スクールバスの場合 下校時間の制約・バス発着場の確保 ・自転車利用の場合 利用可能とする学年の検討 → スクールバス利用を検討する。
児童生徒	8 交通安全	○小学校が確認・対応する危険エリアは従来通りである。	○小学校が確認・対応する危険エリアは従来通りである。	○登下校の見守りについて、布佐地域全体で連携して行うことができる。 ○小学校段階から、布佐地域全体の危険エリアの確認・共有ができる。 ▲児童の行動範囲拡大に伴って危険が増大する恐れがある。 → 地域の連携を図りながら危険な部分を減らすことができるのではないか。 → 布佐地区は、地域での見守りやパトロールを厚く行っているため、一体化後も地域の協力を得られると思う。
児童生徒	9 地域理解	○小学校段階においては、小学校区及び児童の居住地を中心とした範囲において、理解を進める。 ▲布佐中学校区全体を「私たちの地域」として認識し、地域学習や地域交流を行うことが難しい。	○小学校段階においては、小学校区及び児童の居住地を中心とした範囲において、理解を進める。 ▲布佐中学校区全体を「私たちの地域」として認識し、地域学習や地域交流を行うことが難しい。 → 3校合同での学校運営協議会会議や地域学校協働活動、各自治会の防犯パトロールなどがあり、布佐地区全体を地域として認識している。	○布佐中学校区全体を「私たちの地域」として認識し、地域学習や地域交流を行うことができる。 ▲児童の発達段階を考慮し、地域理解の範囲を広げていく必要がある。 → 3校合同での学校運営協議会会議や地域学校協働活動、各自治会の防犯パトロールなどがあり、布佐地区全体を地域として認識している。
児童生徒	10 地域の一員としての自覚の醸成	▲地域の範囲が、各校区や自身の生活範囲にとどまりやすく、中学校に進学しても、布佐地域全体を地域ととらえての所属意識が醸成しにくい。	▲地域の範囲が、各校区や自身の生活範囲にとどまりやすく、中学校に進学しても、布佐地域全体を地域ととらえての所属意識が醸成しにくい。	○自身の生活範囲から離れた布佐地域や地域行事にも小学校段階から参加することで、布佐地域全体の一員としての自覚を醸成しやすくなる。 ▲地域の捉え方が大きくなり、自分事として捉えにくい(自分の住んでいる所からは遠い場所の話だと思ふ)場面が出てくることもあるかもしれない。 → 一貫校になった場合であれば、子どもたちはその学校の学区のことを色々と考えながら動くので、他人事にはならないと感じる。 → 布佐中区では問題ないと感じるためデメリットから削除してよい。
児童生徒				

※ 5 学校行事：入学式、卒業式、運動会等、8 交通安全：通学路を含む
※ メリット：○、 デメリット：▲、 →：会議内での追加意見 とする

＜教職員＞

視点	項目	① 3校とも規模を適正化し現在地で建て替え	② 隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし布佐南小は規模を適正化し現在地で建て替え	③ 3校を一体型小中一貫校へ
教職員	1 学習指導	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、個別最適な学びにむけた指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ▲小学校段階においては単学級となるため、一人の教員が担当する教科・領域が多く、授業準備等負担がかかる。 ▲教員の人数が少なく、学級数も少ないため、日常的に学年のことや教科のことで教員間で相談したり、一緒にまたは分担して学習指導を行ったりすることが難しい。（教員自身の指導力向上にもつながりにくい）	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、個別最適な学びにむけた指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ○一体型小中学校においては、中学校教員による教科担任制の導入、ティーム・ティーチングによる授業の実施を行うことができる。 ○一体型小中学校においては、小学校教員と中学校教員の合同教科研修や指導方法の工夫などが図りやすい。 ○一体型小中学校においては、9年間の児童生徒の学習実態に応じて、学習内容や指導法を工夫することで、学力向上につなげやすい。 ▲布佐南小においては、一人の教員が担当する教科・領域が多く、授業準備等負担がかかる。 ▲布佐南小においては、学習指導において中学校との連携が難しい。	○中学校教員による教科担任制の導入、ティーム・ティーチングによる授業の実施を行うことができる。 ○小学校教員と中学校教員の合同教科研修や指導方法の工夫などが図りやすい。 ○9年間の児童生徒の学習実態に応じて、学習内容や指導法を工夫することで、学力向上につなげやすい。 →文科省も義務教育9年間を繋いでいくことを推奨している。
	2 生徒指導	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、一人一人に合った指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ▲教員の人数が少ないため、日常的に多数の目で児童生徒を見守ることが難しい。 ▲中学校段階において、十分な生徒理解のもと適切な指導に至るまで時間が必要となる。	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、一人ひとりに合った指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ○一体型小中学校においては、児童生徒を見守る目が増える。 ○一体型小中学校においては、9年間をととした児童生徒への継続的な生徒指導を行いやすい。 ○一体型小中学校においては、小中学校教員に、発達段階に応じた指導力の向上を期待することができる。 ▲布佐南小学校においては、教員の人数が少ないため、日常的に多数の目で児童生徒を見守ることが難しい。 ▲中学校段階において、南小からの進学者については十分な生徒理解のもと適切な指導に至るまで時間が必要となる。	○児童生徒を見守る目が増える。 ○9年間をととした児童生徒への継続的な生徒指導を行いやすい。 ○小中学校教員に、発達段階に応じた指導力の向上を期待することができる。 ○地域でのトラブルに対応できる職員が増える。地域で良くない行動をする子どもが現れた時、小中関係なく教職員が声をかけやすくなる。 ▲小学校段階での学区が広くなり、児童の行動範囲拡大にともなう生徒指導上のトラブルが予想される。 →学区が広がっても地域はしっかりと子どもたちを見守っている。地域みんなでサポートし、デメリットではなくしていきたい。 →小中一貫校になると、小学生の面倒を中学生が見るので、そういう面での生徒指導の良さがある。 →布佐地区はすでに3校合同での学校運営協議会等で色々な形で情報を共有し、同じ歩調で歩んでおり、デメリットも克服できると思う。
	3 児童生徒理解	○小学校段階においては、在籍児童数が少ないため、教員間での共通理解が進みやすい。	○布佐南小学校においては、在籍児童数が少ないため、教員間での共通理解が進みやすい。 ○一体型小中学校においては、小中学校の教員による児童生徒の理解が進み、9年間にわたって児童生徒の成長を共有することができる。 ○一体型小中学校においては、児童生徒に関わる教員が多くなることで、教職員が異動しても、児童生徒への理解が薄れる可能性は少なくなる。	○小中学校の教員による児童生徒の理解が進み、9年間にわたって児童生徒の成長を共有することができる。 ○児童生徒に関わる教員が多くなることで、教職員が異動しても、児童生徒への理解が薄れる可能性は少なくなる。 →小学校高学年から中学生にかけての心身が大きく成長・変化する期間に教員全員で見守り、支えることができるのは一体型のメリットだと思う。
	4 児童生徒支援	○小規模校のため全職員が自校の全児童生徒を把握でき、個別最適な支援を行いやすい。 →学校規模が小さいと友人・教職員との関係が固まってしまい、頼る相手が見つからないという子も出てくるのではないかな。	○一体型小中学校においては、学習支援や生活支援の充実が図りやすくなる。 ○一体型小中学校においては、9年間を見通した継続的な支援が行いやすくなる。 ○一体型小中学校においては、9年間利用できる個別支援教室等の設置が可能。 →南小が小規模で教職員が少ないままなのはデメリットではないかな。 →学校規模が小さいと友人・教職員との関係が固まってしまい、頼る相手が見つからないという子も出てくるのではないかな。	○学習支援や生活支援の充実が図りやすくなる。 ○9年間を見通した継続的な支援が行いやすくなる。 ○9年間利用できる個別支援教室等の設置が可能。
	5 教職員交流	○3校合同研修等により、教職員の交流が可能。 ▲各校間の交流には、日程調整や時間の確保に課題があり、中学校区の教職員全体の関係を深めることは難しい。 →若い先生が授業を見に行こうと思っても、見に行く相手がいないということが、小さい学校のデメリットと思う。	○2校（3校）合同研修会等により、教職員の交流が可能。 ○一体型小中学校においては、研修等の日程調整や時間の確保がしやすい。 ○一体型小中学校においては、日常的な交流が可能となり、授業参観や協力、意見交換も行いやすい。 ▲布佐南小学校教職員との交流には、日程調整や時間の確保に課題があり、中学校区の教職員全体の関係を深めることは難しい。	○研修等の日程調整や時間の確保がしやすい。 ○日常的な交流が可能となり、授業参観や協力、意見交換も行いやすい。
	6 教職員配置数	(資料【教職員配置数について】をご参照ください)		

※ 1 学習指導：通知票を含む 5 教職員交流：職員室の状況を含む
 ※ メリット：○、 デメリット：▲、 →：会議内での追加意見 とする

＜保護者・地域＞

視点	項目	① 3校とも規模を適正化し現在地で建て替え	② 隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし布佐南小は規模を適正化し現在地で建て替え	③ 3校を一体型小中一貫校へ
保護者	1 保護者組織	→現状の規模では、布佐小は母数が少ないためPTA組織の担い手が少ないという問題がある。PTA役員を6年間で1度はお願いする状況で、人によってはそれを負担とを感じる方もいる。 →南小も同じように、何かしらの係を行う。役員とクラス委員に関しては、6年間で必ずどちらかは行う流れである。 →まんべんなく役員を行うことになり、単学級だと厳しい実感はある。	→南小だけ残る場合は、布佐小と同じような問題点が残ると思う。 →保護者団体も母数が増えればいろいろな活動ができる。	→他校との親交を踏まえて話をすると母数が増えればいろいろな活動ができる。 →小中一貫校となったときに、PTA、学連協、学校運営協議会等の組織はどうなるのか。
	2 放課後保育			→新しく3校一体型が出来たなら、放課後保育をどう対応するのか。最初から民営化がスタートするのか。 →学童保育について、一体化して学童も1か所なのか、各地区に分室を置くのかは未定。学校まで迎えに行くことについては、今までよりは距離が遠くなるという問題は出てくると思う。
	3 地域コミュニティー			
地域	1 地域コミュニティー			→地域を活かした特色ある科目や授業をアピールして、他学区からも布佐に来たいと思える構想を作っていくべき。 →布佐地区では、3校のコーディネーターの会長が定期的に情報交換をしており、他の地区よりも先行していると思う。
	2 地域交流	→日常から学校と地域住民が繋がっている。 →小さい学校の運動会だと種目を作るのも大変ということを知ったことがある。		→各小区と地域団体は密接に連携しているため、一体型となった際に布小区と南小区の地域同士の連携が心配に思うことがある。 →学校が一つとなることで、地域も布佐地区全体でひとまとまりという認識で活動できるようになるのではないかと。 →3校一体となった場合は、運動会の内容も充実して、見に来る方々も増えることも考えられる。
	3 防災	→現在、南小は避難場所になっている。3校建替えの場合は、そのままのため南小へ避難すれば良いが、仮に③となった場合、避難場所の建物自体は南小のまま残るものなのか。		→南小区の場合、一体化後の避難場所はどうなるのか。通うのは布小(一体化校)だが、避難時に距離が近いのは新木小という状況も考えられる。

※ 1 保護者組織とはPTA等を指す

※ メリット：○、 デメリット：▲、 →：会議内での追加意見 とする

＜その他＞

視点	項目	① 3校とも規模を適正化し現地で建て替え	② 隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし布佐南小は規模を適正化し現地で建て替え	③ 3校を一体型小中一貫校へ
その他	1 教育課程等	<p>・我孫子市では、小中一貫教育として義務教育9年間をつなぐ市共通のカリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」を各学校の教育課程に位置付けて実施している。</p> <p>・布佐中学校区では、「布佐中学校区小中一貫教育グランドデザイン」（基本方針）のもとに「布佐カリキュラム」を実施し、布佐地域の特性を生かした小中一貫教育を実施している。</p> <p>【学校種が従来の「小学校」「中学校」の場合】 ○上記に加えて、これまでどおり各小中学校において児童生徒の実態や、各学校の学校教育目標にもとづき、柔軟に教育課程の編成・見直しができる。</p> <p>【学校種が「義務教育学校」「併設型小中一貫校」となる場合】 ・義務教育9年間の学校教育目標を設定し、より一層9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる。 ○学年段階の区切りを小中学校のような6-3制のほか、児童生徒の発達段階を考慮して4-3-2制、5-4制等に工夫することができる。 ○小中学校を一貫する独自の教科等（「ふるさと科」「防災科」など）を設置することができる。 ▲施設が離れているため、教育課程の編成にあたって協議するための日程調整や、時間の確保などの負担が大きい。 ▲施設が離れているため、教育課程の実施にあたって、その成果や課題が学校全体でとらえにくく、また年度途中の見直し等も柔軟に行うことが難しい。</p>	<p>・我孫子市では、小中一貫教育として義務教育9年間をつなぐ市共通のカリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」を各学校の教育課程に位置付けて実施している。</p> <p>・布佐中学校区では、「布佐中学校区小中一貫教育グランドデザイン」（基本方針）のもとに「布佐カリキュラム」を実施し、布佐地域の特性を生かした小中一貫教育を実施している。</p> <p>【学校種が従来の「小学校」「中学校」の場合】 ○上記に加えて、これまでどおり各小中学校において児童生徒の実態や、各学校の学校教育目標にもとづき、柔軟に教育課程の編成・見直しができる。</p> <p>【学校種が「義務教育学校」「併設型小中一貫校」となる場合】 ・義務教育9年間の学校教育目標を設定し、より一層9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる。 ○学年段階の区切りを小中学校のような6-3制のほか、児童生徒の発達段階を考慮して4-3-2制、5-4制等に工夫することができる。 ○小中学校を一貫する独自の教科等（「ふるさと科」「防災科」など）を設置することができる。 ▲施設が離れているため、教育課程の編成にあたって協議するための日程調整や、時間の確保などの負担が大きい。 ▲施設が離れているため、教育課程の実施にあたって、その成果や課題が学校全体でとらえにくく、また年度途中の見直し等も柔軟に行うことが難しい。</p>	<p>・我孫子市では、小中一貫教育として義務教育9年間をつなぐ市共通のカリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」を各学校の教育課程に位置付けて実施している。</p> <p>・布佐中学校区では、「布佐中学校区小中一貫教育グランドデザイン」（基本方針）のもとに「布佐カリキュラム」を実施し、布佐地域の特性を生かした小中一貫教育を実施している。</p> <p>【学校種が従来の「小学校」「中学校」の場合】 ○上記に加えて、これまでどおり各小中学校において児童生徒の実態や、各学校の学校教育目標にもとづき、柔軟に教育課程の編成・見直しができる。</p> <p>【学校種が「義務教育学校」「併設型小中一貫校」となる場合】 ・義務教育9年間の学校教育目標を設定し、より一層9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる。 ○学年段階の区切りを小中学校のような6-3制のほか、児童生徒の発達段階を考慮して4-3-2制、5-4制等に工夫することができる。 ○小中学校を一貫する独自の教科等（「ふるさと科」「防災科」など）を設置することができる。 ○同一施設のため、教育課程の編成にあたって協議するための日程調整や、時間の確保などがしやすい。 ○教育課程の実施にあたって、その成果や課題が学校全体でとらえやすく、また年度途中の見直し等も柔軟に行うことができる。</p>
	2 児童生徒数推計	(資料【布佐中学校区3校の児童生徒数の変遷等】をご参照ください)		
	3 施設等コスト面	(資料【施設等コスト面】をご参照ください)		
	4 校外学習等時のバスの発着場	○南小は敷地に入れる。 ▲布佐小は356号沿いの華蓮厨房の駐車場を借りている。 ▲布佐中は和田前公園の通りに駐車している。	○南小は敷地に入れる。 ○一体型小中一貫校建設時は、バスの発着も加味した計画ができる。 ▲356号沿いの華蓮厨房、和田前公園の通りのいずれかの駐車となる。	○一体型小中一貫校建設時は、バスの発着も加味した計画ができる
	5 校舎の立地条件			

※ 1 教育課程等では4-3-2制等を含む

※ メリット：○、 デメリット：▲、 →：会議内での追加意見 とする

【別紙】教職員配置数について

布佐中学校区の学校の在り方検討委員会資料

教職員数の比較（令和5年度）

		①			②		③	
		布佐小	布佐南小	布佐中	布佐南小	一体型小中一貫校	一体型小中一貫校	
県費	校長	1	1	1	1	2	1	
	教頭	1	1	1	1	2	2	
	副校長	0	0	0	0	0	1	
	担任	(普通)	6	6	6	6	12	17
		(特別支援)	4	3	4	3	8	9
	担任外（増置）	1	1	7	1	8	9	
	その他（加配）	1	0	1.5	0	2.5	3.5	
	養護教諭	1	1	1	1	2	2	
事務職員	1	2	1	2	2	2		
県費合計		16	15	22.5	15	38.5	46.5	
市費	スクールサポート教員	1	1	1	1	2	3	
	学級支援員	3	2	3	2	6	8	

小学校(前期課程)第1学年の通常学級の人数は34名となり、1学級で算出しています。他学年はすべて2学級編制で算出。

小学校2校の特別支援学級児童を合計すると、知的学級14名・2学級、情緒学級21名・3学級となり、中学校と合わせて、9学級と算出しています。

小学校(前期課程)における標準学級数は14学級となり、増置教員は2人配置。中学校(後期課程)は、標準学級数が10学級となり、増置教員は7人配置。

学校統合の場合には、教育計画や年間指導計画の作成、学校環境の整備等、適切な学習指導や生活指導を充実させるため、加配教員1名を統合前後に配置

学級数の比較（令和5年度）

	①			②		③
	布佐小	布佐南小	布佐中	布佐南小	一体型小中一貫校	一体型小中一貫校
普通学級	6	6	6	6	12	17
特別支援学級	4	3	4	3	8	9

布佐中学校区3校の児童生徒数の変遷等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
布佐小	204	199	198	191	183	173	168	168	158	158	151
布佐南小	161	169	177	170	161	153	165	171	179	184	180
小学校計	365	368	375	361	344	326	333	339	337	342	331
布佐中	219	210	175	169	178	194	185	179	180	169	167
中学校計	219	210	175	169	178	194	185	179	180	169	167
小中学校計	584	578	550	530	522	520	518	518	517	511	498

※ 令和6年度以降の数値は、令和5年度基本調査の今後の推計値となっている。

我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会資料（施設等コスト面）

1 校舎等の建て替えに係る費用の比較

(1) 各学校の現在の施設の床面積

学校名	床面積(m ²)
布佐小学校	5,918
布佐南小学校	5,408
布佐中学校	8,077

出典：我孫子市学校施設個別施設計画（p10）

（教室棟、屋内運動場、給食室などの床面積の合計）

(2) それぞれのパターンについての建て替え費用

ア 【パターン1】 3校とも施設規模を適正化し現在地で建て替え

学校名	床面積(m ²)※	建て替え費用(千円)※2
布佐小学校	4,900	1,617,000
布佐南小学校	4,300	1,419,000
布佐中学校	6,800	2,244,000
合計	16,000	5,280,000

※ (1)の床面積から余剰教室の床面積を除いたもの

※2 建て替え単価：33万円/m²（公共施設及びインフラ資産の将来の更新費用の試算(平成24年3月総務省)）

イ 【パターン2】 隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし、
布佐南小は施設規模を適正化し現在地で建て替え

学校名	床面積(m ²)※	建て替え費用(千円)※2
布佐小中学校	7,800	2,574,000
布佐南小学校	4,300	1,419,000
合計	12,100	3,933,000

ウ 【パターン3】 3校を一体型小中一貫校へ

学校名	床面積(m ²)※	建て替え費用(千円)※2
小中一貫校	9,500	3,135,000